



現代社会学部長
メディアプロデュースコース
五島幸一教授

専門：コミュニケーション
1980年 オハイオ州立大学大学院
コミュニケーション研究科
修士課程修了



左：フィールドスタディ3年
鶴田奈歩さん
右：都市環境デザイン3年
宮本摩衣子さん

これからの社会を 生きるための行動力を 養う3つのコース。

現代社会学部は愛知淑徳大学が男女共学になった1995年（平成7年）に本学2番目の学部として誕生し、今年10周年を迎えました。現代社会が抱える課題は複雑なため、幅広い領域にまたがる学際的な学部の長所を生かそうと、学科は現代社会学科のみで、コース制をとっているのが特徴です。時代のニーズに合わせて、本年度からコースとカリキュラムの改正を行いました。これまで2436人の卒業生を送り出し、現在は1428人が在籍しています。

今年度から3コースに カリキュラムも見直し

五島現代社会学部長 現代社会学部は設立当初、情報メディア、地域社会、国際社会という3コースでしたが、途中で情報メディアがメディアプロデュースと都市環境デザインに分かれて4コースとなり、今年度からは地域社会と国際社会を統合してフィールドスタディコースとし、再び3コースに戻りました。コースも時代の変化、要請に応じて変更していくのが現代社会学部の特徴です。

今年度からは学部全体のカリキュラムの大幅な見直しも行いました。実習系と講義系の科目に大きく分け、3コースとも実際の現場を見ることはもちろん、理論としての勉強、応用の効く勉強に力を入れることにしま

した。

石田教授 フィールドスタディは3コースの中でも、とりわけ現場での体験、調査を重視しています。昨年までは地域社会と国際社会の別コースでしたが、ともに実地研修を重視していたので、2コースを発展させてフィールドスタディコースにしたといった方がいいかもしれません。

実習科目には、体験学習中心のフィールドワークと分析・ディスカッション重視のケーススタディがあり、ケーススタディでも学生は自分たちで事前調査からアポイントメント、取材、プレゼンテーションまでを行います。

五島現代社会学部長 メディアプロデュースは、学部が設置された10年前は全国的にも先駆的な領域で、メディア理論やコミュニケーション理論を教

える大学はありましたが、淑徳ではそれに実習を組み込んだことが新しく、今でも設備は地方の小さな放送局より充実していると思います。

実習科目では、機器の使い方という初級レベルからドラマやドキュメンタリーの制作までを行います。またデジタルメディア演習ではコンピュータを駆使してホームページ作成などを行っています。

清水助教 都市環境デザインコースは文系でありながら、従来では工学部の枠に入る建築を扱うため、国内では新しいコースだと思われていますが、海外の大学では必ずしもそうではありません。文系の視点から都市、建築、デザイン、街づくりを考えており、多面的な知識を得られるのが特徴です。実習系の科目については、建築やイ



都市環境デザインコース 清水裕二助教授

専門：建築デザイン
1988年 東京大学工学部建築学科卒業
1995年 東京大学大学院工学系研究科
博士課程単位取得退学



フィールドスタディコース 石田好江教授

専門：消費経済学・労働経済学
1977年 早稲田大学大学院商学研究科
修士課程修了



現代社会学部現代社会学科

フィールドスタディコース

実際に見て聞いて学ぶ「フィールドワーク」や、起こったことを分析・検証する「ケーススタディ」を通じ、実社会で重視される問題解決能力や創造性を身に付けます。地域や社会、企業、外国の地域などが研究対象です。

メディアプロデュースコース

メディア理論やコミュニケーション理論を広く本格的に学ぶと共に、新しいメディアのあり方、方向性を考えます。最先端の機器が揃った環境で映像番組などの制作を行い、クリエイティブな力を磨きます。

都市環境デザインコース

都市空間デザイン、建築デザインを総合的に学び、歴史的・文化的遺産を生かした新しい都市環境デザインのあり方なども追求していきます。一級建築士、インテリアプランナーを養成するカリキュラムも設定しています。

左：フィールドスタディ4年
菅原洋平さん
右：メディアプロデュース3年
土本泰葉さん



インテリアにとって現場へ行くというのは最も重要なので、以前から力を入れていました。たとえば空間感覚というようなものは、実際に体験しないと身に付きません。設計の課題ではまず敷地の現地調査へ行きますが、周辺状況を含めて調査した結果と建物に求められた機能を、設計の中に取り込んでいくことが重要です。

教育スタッフには第二線で活躍した実務経験者も

五島現代社会学部部長 現代社会学部の特徴としては教員スタッフのバランスが取れているという点も挙げられます。新聞社や放送局、銀行、シンクタンクなど様々な分野の実社会経験者と、大学院で専門分野を極めた先生が、互いに刺激し合いうまくプラスになっているようです。メディアプロデュースでいうと、放送局出身の先生から話

学生の潜在的な力を引き出す実地調査

を聞けるほか、実際に局の見学ができたりと、現場を見て学ぶことができるのは学生にとって大きいですね。
石田教授 フィールドスタディも同じで、アカデミズムの理論と、新聞社や銀行など、実務経験者の現場からの声、その二つが組み合わさってとてもいい構成になっていると思います。
清水助教授 都市環境デザインの学生の多くは卒業後、現場に出ていくわけですから、実際に現場で仕事をされた方のお話、経験を踏まえた教育というのは学生にとって非常に役立つことが多いようです。

五島現代社会学部部長 皆さんが現代社会学部を選んだのは、

鶴田さん 私が現代社会学部に決めたのは、もともとデスクワークよりも外に出て人の話を聞いたりして学ぶことに心がけがあり、体験的に学べるというのに惹かれたからです。またコースを選択するまで1年間猶予があるというのも魅力でした。実際にフィールドワークや消費経済に関する授業を受けているうちに、もっと深く学びたいと思うようになり、地域社会コース(現フィールドスタディコース)を選びました。

菅原さん ぼくはもともといろんなところを見て回るのが好きで、自分では行動力がある方だと思っており、国際社会コース(現フィールドスタディコース)

と聞いただけでいいなと選びました。3年生のときに1週間ほど台湾へ実地研修に行き、現地の人と触れ合うなど様々な経験をしました。

石田教授 フィールドスタディでは学生は現代社会に関わる広い問題を研究しますが、調べるだけでなく文献やウェブでも十分です。しかし実際に現場へ調査に行った学生に聞くと、調査結果が得られたというだけでなく、勇気をもったとか心が痛んだとか、生き方まで揺さぶられるような体験をしている。フィールドワークは学生が持っている潜在的な力を引き出す役割があるのではないかと思います。

土本さん 実は建築をやりたいという意欲を持って入学したのですが、いろいろな授業を受けているうちにメディアに興味を持つようになり、メディアプロデュースコースを選びました。3年生から専門的な勉強が始まって、面白いのですが難しい面もありますね。
宮本さん 私は高校が文系でしたが、大学は建築関係に進みたいと思っていました。でも建築というとはり理系なので、文系からでも入れる大学ということで淑徳を選びました。初めは不安でしたが、ちゃんと授業にもついていけますし、一級建築士という夢を持つことができました。

五島現代社会学部部長 都市環境デザインコースでは、文系出身者で二級建築士を目指している学生は多くいます。



フィールドスタディコース3年(石田ゼミ)

鶴田奈歩さん

ゼミのテーマ「消費・生活行動を探る」。石田先生の授業を履修し、消費者行動に興味を持ってゼミに入りました。春にエンカウンターキャンプのスタッフ責任者を務めました。他学部では交流が中心ですが、現代社会学部ではフィールドワークをメインに、スタッフでツアーを企画して高山市内を回りました。新入生からの反応もよく、スタッフをしたことで自分も成長できたように思います。



左より
都市環境デザインコース 清水裕二助教授
現代社会学部長・メディアプロデュースコース 五島幸一教授
フィールドスタディコース 石田好江教授

フィールドスタディコース4年(西尾ゼミ)

菅原洋平さん

ゼミのテーマ「日本人の対外観と外国人の日本観」。世界には多くの問題がありますが、ぼくが大切だと思うのは相互理解です。互いに理解し合うことで世界はよりよくなるのではないかということを考えられるこのテーマに惹かれて、西尾ゼミを選びました。卒論は「地方分権に見る日本の新しい可能性」というテーマで書くつもりです。



現代社会が抱える問題に自分なりの結論を出し、うまく対処できる人材を育成したい。——五島現代社会学部部長

実地調査で生き方を揺さぶられるような学生も。——石田教授

実際に体験しないと身に付かないことがある。——清水助教授

2年生でコースを選択 ゼミもスタート

五島現代社会学部部長 現代社会学部では、二つの問題について多くの視点から物事を見て、自分で分析、調査し、自分なりの結論を出せる学生を養成したいと思っています。その能力を4年間で身に付けてほしいので、幅広い科目を用意しています。

学生は2年生からコースを選択しますが、皆さんが話したように、それ以後も自分の興味のある、役立ちそうだと思う科目があれば、たとえ別のコースの授業であつても履修できます。非常に柔軟であることも特徴ですね。

菅原さん ぼくの場合、心理、哲学、宗教、経済、英語、コンピュータと枠にとらわれないいろんな勉強ができたので、自分の可能性を試せたと思います。

す。

土本さん 私もいろんなことが学べるのは、とてもいいと思います。それに現代社会について学んでいるので、勉強したことが実際の生活の場で「あ、これはこういうことだったんだ」と分かることがあり、そういう発見も面白く、勉強していてよかったと思うことがよくあります。

五島現代社会学部部長 今年度からは、これまで3年生からだったゼミを2年生から始めることにしました。

石田教授 学生は多角的に物事を考えることが求められているため、基本的には幅広い分野を勉強することが必要なのですが、それだけでは広く浅くになってしまいます。そのためコース選択と同時にゼミを決めて、二方では広く学び、ゼミでは二つのテーマに深くじっくりと取り組むという形にしました。両方の形が必要だと思

います。今の4年生は就職活動に時間を取られてなかなか落ち着いて勉強できない状態です。それなら1年早くゼミを始めようということです。

コンピュータの活用

五島現代社会学部部長 現代社会学部では入学時に学生全員がノートパソコンを持つことも特徴です。淑徳では現在、他の2学科でも導入していますが、学部単位で始めたのは現代社会学部が初めてです。メディアプロデュースではCG制作やプログラミング、作曲など幅広い分野で活用しています。

清水助教授 都市環境デザインもコンピュータで図面を描くCADの授業はほとんどの学生が受けています。平面から3D、立体を描くまでを学べるので、学生にとって建築だけでなくグラフィックなど様々な分野で役立てることのできる強力なスキルになるので

現代社会学部



都市環境デザインコース3年(清水ゼミ)

宮本摩衣子さん

ゼミのテーマ「建築・都市と現代社会」。
ゼミ訪問で先輩方の作品を見たときに興味がわき、
自分でもこういう作品を作りたいと清水ゼミに入りました。



メディアプロデュースコース3年(五島ゼミ)

土本泰葉さん

ゼミのテーマ「メディア・コミュニケーション」。
雑誌や広告に興味があったので五島ゼミを
選びました。
現代社会学部は新しい取り組みが多く、いろ
んな先生がいる点がいいと思います。



はと思います。

宮本さん だんだん使いこなせてく
るようになると、楽しいですね。

石田教授 フィールドスタディでも、パ
ソコンは、取材したことを各自でまと
めて、パワーポイントを使ってプレゼン
テーションするときに使います。かな
り高度な画像処理をしている学生も
多く、ツールとして使いこなしている
という印象です。

フィールドスタディでは毎年夏に、
学生がゼミごとに研究成果を発表す
るフィールドワークセミナーを開催し
ていますが、こうした経験を積むこと
でプレゼンテーション能力が磨かれる
と思います。企画運営も学生が手が
けています。

菅原さん ワードやエクセルなどのソ
フトは大学に入ってから使いましたが、
かなり向上したと思います。

清水助教授 イベントでいえば、都市
環境デザインでは毎年2月、学外のギャ
ラリーで卒業制作・卒業論文展を開
いています。また夏には、東京のギャラ
リーとの共催で学内で展覧会を行っ
ていますが、学生が会場構成からデ
ザイン、施工までを行い、約1000人
が訪れます。モノづくりは1人ではで
きないということが非常によく分か
る授業だと思っていますね。

宮本さん 私も参加しましたが、受
け身では進んでいかなかったので、とても
ためになる授業です。

五島現代社会学部長 メディアプロ
デュースでは三重テレビとの連携で、学

生が「ワクドキ！元氣！」という番組
に参加し、月に一度、自分たちが制作
したビデオを放送するとともに、制
作スタッフとして生出演しています。
学生にとつてはとても張り合いがある
ようです。

また秋に、3年生の希望者でアメリ
カへメディア事情の見学に行きます。

土本さん 私も参加するので、日常
会話くらいは勉強しておこうと思っ
ています。

卒業後は専門を生かした 分野や一般企業にも

五島現代社会学部長 卒業後の進
路については、メディアプロデュースでは
メディア系に進む人が多いですね。も
ちろん金融関係、旅行代理店など一般
企業へ行く人もいます。一般企業の広
報などにも行つてもらいたいと思いま
す。土本さんの希望は？

土本さん 事務のアルバイトをして
自分に向いているかなと思ったので
が、まだこれから変わってくると思
います。とりあえず秘書検定と医療事
務の資格を取得しました。

石田教授 フィールドスタディは旅行
代理店や公務員の希望者が多いので
すが、実際は幅広い業界に就職してい
るようです。

鶴田さん 私はマーケティングや消
費者の動向に興味があり、将来はマ
ーケティングに関わる仕事をしたいと思
っています。前期のゼミのケーススタディ
で半田のミツカンへ取材に行ったのも、

いい経験になりました。将来、役立
つかなと思います。大学で開講されてい
る販売士検定3級の講座を勉強し、先日
試験に合格しました。ほかに秘書検
定と漢字検定の2級の資格も取得し
ました。

菅原さん ぼくは授業でのケース
スタディというより、一人旅をすること
が多く、自分なりに勉強しています。
卒業後は社会科の教員を目指してい
ます。

清水助教授 都市環境デザインの卒
業後の進路も多岐にわたります。建
築、住宅関係ではゼネコン、大手から
個人までの設計事務所、ハウスメーカー
などが多いですね。今後は衛生器機
メーカーやキッチンメーカーなども増
えてくると思います。

一級建築士の受験資格として学部
卒業後2年間の実務経験が必要で
すが、研究科修士課程で2年学べば実
務経験と見なされます。今年大学院
を修了した学生が受験しましたが、
結果が出るのが楽しみです。

宮本さん 私も建築士を目指して
いるのですが、大学院も視野に入れて
考えています。これまでは課題だけで
精一杯だったので、資格も取っていきた
いと思っています。

五島現代社会学部長 今後も問題
解決能力を備えたバランスのいい人材、
これからの社会に役立つ人材を育成
していきたいと思っています。